

農業 WEEK 九州展（第4回） 畜産フォーラム2026

<https://www.jagri-global.jp/hub/ja-jp/about.html>

明日からできる! 健康を守る農場づくりのひと工夫

～「やらなきゃ」から「これならできそう」へ～

開催日: 2026年5月27日(水) 9:30～16:00

会場: グランメッセ熊本 特設会場

ファシリテーター: 末吉 益雄

鹿児島大学共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センター特任教授

【「分かっているけど、続かない」そんな現場の声から生まれたフォーラムです】

病気は突然やってくる。……「防疫が大切なのは分かっている」「でも、毎日の作業の中で続けるのは難しい」「何から始めれば良いか分からない」「他の農場は、実際どこまでやっているの?」

そんな現場の“本音”に寄り添いながら、このフォーラムでは、難しい理論ではなく、“明日からできる工夫”をテーマに、実際の現場で役立つヒントを共有します。

・このフォーラムをきっかけに

✓ ちょっとした日常管理の見直し

✓ 使いやすい資材や設備の工夫

✓ 続いた対策・続かなかった対策

✓ 生産者同士の本音トーク

完璧を目指す場ではありません。「まず、一つやってみよう」そのヒントを持ち帰っていただく場です。

また、展示会場では、実際の資材や設備を”見て、触れて、直接相談”できます。

【プログラム】

① オープニングセッション(9:30-9:50)

農場の底力を上げる ～ 防疫・衛生管理のポイント ～(末吉)

要旨: 農場防疫の強さは、「やらされる」ではなく、日々の衛生管理を「これならできそう」と始め、続ける工夫から生まれます。本フォーラムでは、明日から実践できるヒントを通じて、家畜の健康を守る農場の底力を高めます。

② セミナーI部(9:50-12:00)※各講演15分(質疑応答含む)

a. ワクチン、ちゃんと取り扱っていますか。ちゃんと投与出来ていますか。

長尾 和哉氏 (MSD アニマルヘルス株式会社)

要旨: (準備中)

b. 毎日やってる消毒、コストを掛けず、人手も掛けず

上野 広昭氏 (株式会社FORCUM) 日々の徹底した消毒作業、現場から聞こえてくるのは切実な声。「毎日のことだから、負担が大きい」、「人手が足りない」「消毒薬のランニングコストがかかる」、毎日の消毒だからこそ『コストを掛けず、人手も掛けず』。持続可能な防疫体制づくりに必要な防疫機器をご紹介します。

c. 畜産における腸活とは? ～腸から始める体調管理～

福井 和夫氏 (東亜薬品工業株式会社) 飼料高騰や猛暑ストレス等の課題解決の鍵は「腸活」です。最大の免疫器官である腸内環境を生菌剤で整え、飼料効率の改善、疾病予防、健康維持を実現します。治療から予防へ転換する「体調管理」による生産性向上について解説します。

d. 病気を減らす換気とは? ～清浄な空気は命の源～

新原 弘二氏 (株式会社新原産業)

要旨: (準備中)

休憩 (11:00-11:10)

e. 床管理で差が出る—すのこ長持ちと『水洗・洗浄』『消毒』の正しい使い分け

北澤 正行氏 (江南コンクリート工業株式会社)

要旨: (準備中)

f. 防疫は足元から ～洗いやすい長靴が農場を守る～

町田 健氏 (富士平工業株式会社) 本製品はブロイラー鶏舎内での使用を想定したもので、以下の利点がある。①着脱が容易: 鶏舎内での頻繁な履き替えに適した短筒仕様。②底面がフラット: オガコ上での作業後に靴底へオガコが付着しにくい。③清掃・消毒が容易: 付着したオガコが落としやすく、作業負担を大幅に軽減。これらの特性は現場の作業効率および衛生面の改善に大きく寄与する。

g. 効かない理由はそこだった ～現場で効かせる吸血飛来昆虫対策～

岩田 隆氏 (エランコジャパン株式会社) 畜産現場において飛来昆虫は日常的にみられることが多く、家畜及び作業者に対し様々な悪影響を及ぼす。本講演では吸血性の飛来昆虫、特にサンバエとアブに焦点を当て、農場でできる防除対策を提案する。

昼食・休憩・展示 (12:00-13:00)

展示ブースでは、実際の資材・設備を見ながら、企業担当者へ直接相談できます。

③ セミナーII部 (13:00-13:50) ※各講演 15分 (質疑応答含む)

a. 検査して終わらせない ～現場で活きるPCR検査の使い方～

三谷 康正氏 (株式会社ゴーフォトン) PCR検査はラボで実施するのが当然という考えを覆し、PCR検査を現場で実施(約30分)できるモバイル型のPicoGene® PCR1100とその専用試薬を開発した。本法は病院のみならず畜産、農業、水産、食品、動物病院と様々な分野で、今まで不可能だったオンサイトPCR検査を可能にしている。今回は畜産分野を中心に、その有効活用方法を紹介する。

b. 防疫と飼養衛生 ～ハードで守って、ソフトで育む～

上村 涼子先生 (宮崎大学) 家畜飼養者にとって、防疫と飼養衛生の両立を困難であることを多く目にする。そこで、防疫と飼養衛生を新しい視点で整理することを試みる

c. ちゃんとやっているのに、なぜ差が出る? ～例「消毒」≠「滅菌」～

末吉 益雄 (鹿児島大学) 消毒はしているのに結果に差が出るのは、目的や方法の違いにあります。「消毒」と「滅菌」の違いを手がかりに、防疫は作業ではなく考え方で変わること整理し、現場で活かせる視点を共有します。

休憩 (13:50-14:00)

④ パネルディスカッション (14:00-15:00)

テーマ:「元気が続く農場は、どんな工夫をしている?」

本音で語る農場防疫・防災

- 「みんなどこまでやっている?」
- 「なぜそれを選んだ?」
- 「続かなかった経験から学んだこと」

★ 防疫・防災は“仕組みで回す” ～入れない・広げない・備える農場づくり～

黒木 守久氏 (有限会社エムケイ商事) ～現場で取り組む若手・中堅生産者として～

養豚場における防疫・防災の実践について、現場の取り組みを紹介する。侵入防止、場内拡散防止、火災対策の3点を軸に、見える化・仕組み化・継続の重要性を具体例とともに解説し、安全な農場運営のポイントを示す。

★ 地域で病気を広げないために、生産者と一緒にできること

中島 有美子先生 (JAみやざき本店養豚課) ～生産者を支えるJA現場担当者として～

防疫は「やっているつもり」では守れない。殺処分現場の無念さを原点に、巡回指導で得た現場の知恵や直営農場の事例を共有し、JAとして地域で防疫意識を横展開。発生を防ぐ視点と、万一でも再開できる支援の重要性を伝える。

⑤ 本音トーク交流会 (15:00-16:00)

・ 名刺交換で終わらない!! “持ち帰り”がある交流会

セミナー登壇者と会場の皆さんとの現場リアルトーク交流会
こんなテーマで語り合います(例)

- ・ 「うちでは、ここが一番むずかしい」
- ・ 「やめた対策、始めた対策、ありますか?」
- ・ 「防疫はコスト?それとも投資?」

・ 「現場で続く工夫」を一緒に考える時間にしましょう。

最後に

防疫は、量ではなく設計。

特別なことをするのではなく、「理解して、続けること」が農場を守る力になります。

このフォーラムが、皆さまの農場にとって“明日からの一歩”につながれば幸いです。

★会場内展示ブースもぜひご覧ください!

資材: 予防/消毒/腸活/換気/床材/特別長靴/害虫対策/検査機器/SKLVほか